

# 平成30年度事業計画

平成30年4月 1日から

平成31年3月31日まで

清泉女学院大学	.....	1
清泉女学院短期大学	.....	8
長野清泉女学院中学・高等学校	.....	14
清泉女学院中学高等学校	.....	21
清泉小学校	.....	25
清泉インターナショナル学園	.....	28

学校法人 清泉女学院

S J N21 構想の方向性に沿って策定した修正経営強化・改善計画（平成 29 年度～31 年度中期計画）の諸施策を実施する。

## 1. 教育研究組織の改編、新增設

引続き教育組織の改編、新設を進める。

- (1) 平成 30 年（2018 年）4 月人間学部にて現行の心理コミュニケーション学科に加えて文化学科を設置し、2 学科体制で人間学部の運営を開始する。
- (2) 平成 31 年（2019 年）4 月看護学部開設に向けた準備を進める。

## 2. 教育活動

「定員の充足」「教育の質保証」「地域貢献の充実」を重点項目に据え、教育目標、アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの具体化と明確化を図り、P D C A を通して人材育成と地域貢献の 2 つの使命を達成する。

### (1) 建学の精神の実現

カトリック校としてのミッションスクールの持つ暖かい雰囲気作り等によるほか、多くの施策を通してアイデンティティの維持と地域への浸透を図る。

- ア. 学則の見直しを行い、本学のメッセージ「ここを育てる」が学内に浸透するよう、そのメッセージの取り入れ方を工夫して教育に当たる。
- イ. 「建学の精神」についてさらに理解を深めるために、教職員研修会を行う。
- ウ. キャンパス・アワーでは理事長講話、学長講話等を採り入れて、学生に建学の精神の伝える機会を設ける。
- エ. 「建学の精神」を伝える機会として、引続き学内ミサを定期的実施する。
- オ. 「建学の精神」の学びを具体的に生かす、ボランティア活動等の具体的体験・実践の機会を設定し、カトリック精神を体感する機会を設ける。

### (2) カリキュラム

ア. 育てる学生像の明確化と学修方法の変革

- ・各学科と各コースが掲げた教育目標を発信し、また 2 学科体制の始動に合わせて作成しなおした 3 ポリシーに基づいた教育を実施していく。
- ・各学科と各コースにおける最終的な学びのゴールの一つとして、資格取得等の目標（率や人数）を設定し、教育を実践する。
- ・各科目でアクティブ・ラーニング的要素を導入し、自主的学修を適切に促す予習・復習の仕組みを稼働させる。
- ・「身につける 7 つの力」を各授業に組み込み、これを有効に使った学修指導を行う。

イ. 育てる学生像に沿ったカリキュラムの編成

- ・カリキュラム・ツリーに基づいて、科目間の関係および共通教育の位置づけを明確にする。さらに履修モデルを作成することで、各学科と各コースで科目群を体系づける。
- ・入学前教育（学びの基礎知識リサーチ、読書レポート、高校生活の振り返り、SJC Learning、2 回のスクーリング）を着実に実施し、2 学科の方針に沿ってさらなる充実を図る。

ウ. ディプロマ・ポリシーの運用

- ・各学科で作成しなおしたディプロマ・ポリシーを運用し、各授業で学習成果を本学の「身につける 7 つの力」を用いて定期的に評価する仕組みを実践し検証する。

### (3) 英語教育・国際交流・留学

英語コミュニケーションコースを中心に、生きた英語力の強化に取り組むため、海外研修プ

プログラムの実施、TOEIC (VELC) 試験の活用をする。

(4) ICT 教育

日商 PC、MOS 等の資格取得を通して、基礎的能力の向上を図るほか、応用力の伸長も図る。

(5) 図書館

ア. 学生の学修環境、教員の研究・教育環境の整備

各科目で挙げられている参考資料を図書館で整備するほか、年度ごとに重点的に実施する分野を決め、計画的に蔵書の見直しを行う。

イ. 学生ニーズの把握・利用者増への対策

学生のニーズの把握し、満足度の向上を図る。また、ガイダンスを通じて図書館の機能の周知と利用向上を目指す。

ウ. 利用スタイルの変化への柔軟な対応

アクティブ・ラーニングなど授業スタイルの変化に対応し、ゼミでの授業やグループ学習の場として図書館を提供する。

エ. 図書館の積極的は広報活動

図書館への関心を寄せる活動（図書館見学ツアーや企画展、サークルによるブックフェアやクリスマスなど）を実施する。

3. 研究活動

(1) 共同研究にて自治体と共通で設定した課題について研究を実施し、地域への還元をめざす。

また、科研費応募を条件とした個人研究費により競争的研究資金獲得を積極的に支援する。

(2) 研究の質の向上と研究活動の全体的な活性化のため、共同研究発表会、国内外の学外研究者との学術交流会を開催する。

(3) 出版助成により研究成果を社会に積極的に還元する。

(4) 本学ホームページへの「教育文化研究所ニューズレター」掲載等により、研究活動を積極的に公表する。

(5) 研究関連諸規程及び取扱基準に基づき、不正防止計画を実践する。

4. 学生生徒支援

(1) 奨学金

経済的支援に重点を置いた奨学金性を、分かりやすく学生に伝えていく。

(2) 通学支援

ア. 毎朝、三才駅から無料のスクールバス（大型バス 2 台 4 便）とマイクロバス（2 便）の運行を継続し、学生の通学の利便性と安全を図る。

イ. 秋学期は帰路、暗くなるため、1 便マイクロバスの夕方運行を行う。

ウ. バスを利用して通学する学生に対して、定期券購入代金の補助を行う。

(3) ケア体制

ア. 学生生活上の支援を学生目線で常に検討し、対応可能なものから向上改善する。

イ. 学内メール連絡網システムを積極的に活用し、学生の安全確認や各種の情報提供・連絡を積極的に行う。

ウ. 学生の希望や意見を、学生生活アンケート等を通じてくみ上げ、可能な事項から順次改善

に努める。

エ. 学生の欠席調査を行い、早期に教職員で情報を共有して、退学者の防止や、学生個々人に合わせた細やかな学生支援を行う。

#### (4) キャリア支援

ア. 多様な学生との相談体制および対応力の補強

- ・キャリア担当教員、他部署と学生情報の共有と連携を図り、多様な学生への対応力を補強し、効果的な就職活動支援を行う。

イ. キャリア支援の質の向上

- ・ガイダンス・セミナー・キャリア系授業とも連携し、キャリア支援の向上を図る。

ウ. インターンシップの推進

- ・インターンシップを推進し、職業意識の形成と学習意欲の喚起、自立心の向上に役立てる。

エ. 企業・外部機関との関係強化および新学部・新学科の出口支援のための情報収集を行う。

### 5. 保護者・地域社会等との連携

#### (1) 保護者・卒業生

学内の情報発信等を通して連携を維持強化する。

ア. 保護者会（泉会）総会、進路相談会を開催する。

イ. 学内報「カレッジ通信」（年2回）を発行する。

ウ. キャリア支援センター主催の卒業生同期会を開催する。

エ. 卒業生（卒業後3年経過）にアンケート調査（就業状況、学生生活の感想等）を実施する。

#### (2) 地域社会との連携

建学の精神を具現化する地域連携を展開する。

ア. 「地域発 元気づくり支援金」への申請・採択・実施に向けて取組み

既存の連携先との関係強化を含め、地域連携事業推進体制の整備を引き続き進める。

イ. 地域連携センターの機能強化

地域課題と学部・学科の教育活動を繋げ、それぞれの学科の特徴を生かしたサービスラーニング型教育、PBL型教育による授業で学んだ知識・技能を社会的活動の中で活かせる場所を学生に提供する。

ウ. 生涯学習講座や開放講座

シニア層や女性の活躍、インバウンド、などの地域課題解決の下支えとなるテーマの講座を増やすほか、子育て中の女性が安心して学べる環境を整えるなど、地方創生や子育て支援に貢献できるよう見直す。

#### (3) ボランティア

- ・子育て支援に関するボランティア（こども食堂他）
- ・学習支援に関するボランティア（学習チューター他）
- ・地域活性化に関するボランティア（長野マラソン他）
- ・復興支援に関するボランティア（東北震災ボランティア他）

## 6. 学生生徒の募集・受け入れ

### (1) 入学者数・学生生徒数の目標

- ア. 人間学部 80名
  - ・心理コミュニケーション学科 48名
  - ・文化学科 32名
- イ. 看護学部 76名

### (2) オープンキャンパス・学校説明会

人間学部のオープンキャンパスは上野キャンパスで実施し、看護学部のオープンキャンパスは長野駅東口キャンパス近くのホテルを会場として行う。また、新学部設置に伴う入試説明会を開催する。受験生の個別の対応は個別入試相談会として土曜日、日曜日を中心に開催し、平日は夜間に開催する。

- ア. オープンキャンパス
  - ・人間学部 5回開催
  - ・看護学部 5回開催
- イ. 入試説明会
  - ・看護学部 4回開催
- ウ. 個別入試相談会 6回開催
- エ. オープンキャンパス参加への誘導
  - ・オープンキャンパスの運営を見直すほか学生スタッフの充実等を図る。
  - ・都度、SNS、学生へのDM案内、高校訪問による告知等を充実する。

### (3) 志願者増への取組

- ア. データ収集・分析に基づいた戦略の立案
  - ・情報の蓄積、分析の実施により効果的なアプローチを実施する。
- イ. 資料請求者の増加策
  - 本学のセールスポイントと魅力を再確認し発信
  - ・セールスポイント（学び、キャンパスライフ、支援制度、就職等）を広報的に再構築し、各ツール（大学案内、就職・進学ツール、就職速報、保護者向け案内等）で発信する。
  - ・セールス話法の統一
  - ・ホームページへの誘導及びホームページの発信を推進する。
- ウ. アプローチ高校及び方法の見直し
  - ・高校別セールス方法を策定する。
  - ・入学者が減少した高校の状況を確認し対策を実施する。
  - ・出張講座の増加により大学の学びと教員の魅力を直に伝える。
  - ・高校ガイダンスへの参加を強化する。
- エ. 保護者へのアプローチ
  - オープンキャンパス開催時に保護者説明会を開催し、本学の取り組み、学生支援体制、キャリア支援体制、学納金、奨学金の説明を通じ本学で学ぶことのメリットをPRする。
- オ. 高等学校教諭へのアプローチ
  - 姉妹校連絡協議会、高校連絡会を開催し、入試についての説明、個別相談及び情報交換を行い学生募集につなげている。

カ. 出願への誘導

コンビニ振込、クレジット決済及び Web 出願を A O 入試まで拡大し受験生の利便性の向上を図る。

キ. 合格者の歩留まりをアップ

- ・奨学金制度を見直し、有効に活用する。
- ・本学の魅力を合格者へきめ細かく発信する。

(4) 編入・帰国子女

積極的に広報を行う。

ア. 清泉女学院短期大学姉妹校編入学

- ・国際コミュニケーション科と幼児教育科から姉妹校推薦編入学を推進する。

イ. 地域連携センターとの連携

- ・公開講座参加者のアンケートを基に社会人入学者の増加を図る。

ウ. 海外姉妹校編入学

- ・早期の接触により、漢陽女子大学校からの編入学者の増加を図る。

(5) 広報活動

ア. 高校生・保護者・高校教諭・地域に対し清泉女学院のケアの文化を支える教育を伝え、定員確保を目指す。

イ. 清泉百年プロジェクトを継続し、清泉女学院のブランドイメージの定着を目指す。

ウ. 新学部・学科、学部改革の P R をする。

(6) 入試制度

高大接続改革に対応し、新たな入試方法を検討する。

ア. 年内応募者の増強を狙いとした入試の実施

- ・姉妹校推薦入試、指定校推薦入試、公募推薦入試、自己推薦入試、A O 入試の見直し等により入学者を確保できる入試にしていく。

イ. 奨学金制度の見直しによる入試及び特典付与の在り方を検討

- ・本学を志望する受験層に本学奨学金が効果的に活用できる入試に変更する。

ウ. 看護学部新設に伴う入試制度の検討

- ・質の高い受験生が確保できる入試を検討する。

(7) 学納金

学納金の水準は現状のままとする。

入試特典制度（ラファエラ・マリアスカラシップ、社会人入学者の入学金半額免除、同窓生子女入学者の入学金半額免除、同窓生・在学生の姉妹入学者の入学金半額免除、清泉女学院短期大学・清泉保育女子専門学校からの編入学者の入学金免除）による入学金、授業料の半額免除又は半額減免を周知させ募集活動につなげる。

7. 施設設備の維持・充実

(1) 施設設備計画

ア. 上野キャンパス関係

看護学部設置に伴い、学生控室の充実のため、イグナチオ館を建設する。

アクティブ・ラーニング等に適した授業を展開するため、教室視聴覚機器等の充実を図る。

施設設備の更新的な投資を継続して行う。

イ. 看護学部関係

長野駅東口キャンパス建設、整備のため、ピラール館を建設する。  
併せて、視聴覚機器、什器、備品、図書を整える。

(2) 修繕計画

大規模修繕は計画していないが、維持的な修繕を行う。

8. 外部資金

(1) 補助金

ア. 経常費補助

平成 29 年度並みの補助金獲得を目指す。

イ. 看護学部設置関連

看護学部設置の認可を受け、長野市、長野県からの補助金を獲得する。

(2) 寄付金

ア. 通常寄付

関係団体ほかからの寄付金を募集する。

イ. 清泉百年プロジェクト

清泉百年プロジェクト（文化学科設置、看護学部設置、施設の充実、定員の確保等）を目的に寄付金の募集活動を行う。

(3) 研究費等

研究活動の充実のため、科研費への応募を一層促進する。

9. 管理運営、財政基盤の充実

(1) 中期計画

ア. PDCA の実施状況

年度及び半期の実施状況の確認と未達成事項等を踏まえた計画の修正を実施している。内容の点検は、自己点検評価とも連動させ、計画達成のための実質的な PDCA を展開している。

イ. 中期計画の達成状況

中期計画（修正経営強化・改善計画）の平成 29 年度半期振り返りでは、経営面、各部署計画は、ほぼ計画通り遂行されており、結果も出てきている状況にある。

(2) 経費方針

ア. 予算編成

平成28年度予算からは、事業活動収支計算書の全体見込額を予算として、その枠内で部署の予算を割り当てる方式に変更した。予算割り当てにおいては、各部署の過去の実績と年度における事業の必要性等を考慮のうえ決定し、その予算枠の中で業務を実施する。予算枠の決定は、学長を初めとする予算査定会議で行い、各部署に通知して各部署予算を決定する。

イ. 経費計画

教育研究水準の低下を招かないことを前提に、過去の実績を考慮のうえ総枠としての経費見込額を設定した。この総枠から各部署予算枠を設定するが、各部署の削減努力によ

り達成する。

(3) 第2号基本金計画

計画しない

(4) 債券運用計画

計画しない

(5) 情報・システム関連

Windows7のサポート期限切れに対応して、PCの入れ替えを順次行う。

東口キャンパスのICT基盤の整備を行う。

(6) 自己点検・評価

毎年の点検評価を実施し、点検結果については、翌年度事業計画に反映をすることで事業計画のPDCAとリンクさせる。

10. その他

(1) 周年活動

計画なし

(2) その他記念行事

東口キャンパス建設工事 着工、竣工時に記念事業、式典等を予定する。

S J N21 構想の方向性に沿って策定した修正経営強化・改善計画（平成 29 年度～31 年度中期計画）の諸施策を実施する。

## 1. 教育研究組織の改編、新增設

- ・短期大学及び各学科の教育目的及び教育目標に変更はないが、平成 29 年度に 3 ポリシーの見直しを図り、平成 30 年度より施行する。
- ・入学定員および収容定員に変更はない。

## 2. 教育活動

### (1) 建学の精神の実現

#### ア. 短期大学全体

- ・平成 29 年度に見直した短期大学の 3 ポリシー（A P、D P、C P）に関して、とくに D P の検証に伴う指標化の検討を行うとともに、同じく平成 29 年度の「学習成果」の見直しを受け、学習成果の具体化の検討を行う。
- ・カトリック校としてのアイデンティティの維持、浸透を踏まえ、式典、静修会（5 月、クリスマス、卒業）等のあり方を常に見直し内容を充実させ、社会貢献活動等の機会をさらに拡充し、「建学の精神」の学びを生活にいかしていく。
- ・「建学の精神」を生かした授業改善の活動、研修を各学科で展開する。

#### イ. 幼児教育科

- ・「建学の精神」及び学園メッセージの「心を育てる」を背景とした学科の 3 ポリシーについて、とくに D P 及び「学習成果」の具体化、指標化を図る。
- ・新任教員に対して、建学の精神と結びついた保育者養成のあり方について、改めて共通理解を図る機会を設ける。

#### ウ. 国際コミュニケーション科

- ・「建学の精神」に基づく本学科の基本方針に沿って、とくに、D P で謳っている「清泉スピリット 5 つの力」を充実する教育の具体化に取り組む。
- ・科会・科の F D などで、「建学の精神」に基づく教育方法について、共通理解を深めていく。

### (2) カリキュラム

#### ア. 短期大学全体

- ・平成 29 年度に一部改定した「共通教育」について、現代的教養の観点から継続して検討を進める。

#### イ. 幼児教育科

- ・平成 31 年度より施行される新たな幼稚園教諭養成および保育士養成の課程へのスムーズな移行を図るよう準備を進める。
- ・引き続き入学前教育の重点化としての基礎学力、日本語力を確保する工夫（「保育のための日本語表現」の必修化）、通信添削講座の受講の促進等の強化を図る。
- ・新任教員に対する F D 活動を組織的に実施し、保育者養成教育の質の向上を図る。
- ・「保育演習棟」の必要性の検討を継続するとともに、機器備品や教材を計画的な充実を図る。

#### ウ．国際コミュニケーション科

- ・平成30年度より、国際コースで観光分野、ビジネスコースで医療及び金融分野の科目を設定した、新カリキュラムをスタートさせる。また、平成30年度は、旧カリキュラムも混在するため、齟齬のないよう、円滑な運営に取り組む。
- ・平成31年度より施行される外国語（英語）中学校二種教員養成課程へのスムーズな移行を図るよう準備を進める。
- ・アクティブ・ラーニング導入の具体化を進め、より深い学びに結びつける授業方法の改善を図る。

### 3．研究活動

- (1) 共同研究にて自治体と共通で設定した課題について研究を実施し、地域への還元をめざす。  
また、科研費応募を条件とした個人研究費により競争的研究資金獲得を積極的に支援する。
- (2) 研究の質の向上と研究活動の全体的な活性化のため、共同研究発表会、国内外の学外研究者との学術交流会を開催する。
- (3) 出版助成により研究成果を社会に積極的に還元する。
- (4) 本学ホームページへの「教育文化研究所ニューズレター」掲載等により、研究活動を積極的に公表する。
- (5) 研究関連諸規程及び取扱基準に基づき、不正防止計画を実践する。

### 4．学生生徒支援

#### (1) 奨学金

経済的支援に重点を置いた奨学金性を、分かりやすく学生に伝えていく。

#### (2) 通学支援

- ア．毎朝、三才駅から無料のスクールバス（大型バス2台4便）とマイクロバス（2便）の運行を継続し、学生の通学の利便性と安全を図る。
- イ．秋学期は帰路、暗くなるため、1便マイクロバスの夕方運行を行う。
- ウ．バスを利用して通学する学生に対して、定期券購入代金の補助を行う。

#### (3) ケア体制

- ア．学生生活上の支援を学生目線で常に検討し、対応可能なものから向上改善する。
- イ．学内メール連絡網システムを積極的に活用し、学生の安全確認や各種の情報提供・連絡を積極的に行う。
- ウ．学生の希望や意見を、学生生活アンケート等を通じてくみ上げ、可能な事項から順次改善に努める。
- エ．学生の欠席調査を行い、早期に教職員で情報を共有して、退学者の防止や、学生個々人に合わせた細やかな学生支援を行う。

#### (4) キャリア支援

- ア．多様な学生との相談体制および対応力の補強
  - ・キャリア担当教員、他部署と学生情報の共有と連携を図り、多様な学生への対応力を補強し、効果的な就職活動支援を行う。
- イ．キャリア支援の質の向上

- ・ガイダンス・セミナー・キャリア系授業とも連携し、キャリア支援の向上を図る。
- ウ. インターンシップの推進
  - ・インターンシップを推進し、職業意識の形成と学習意欲の喚起、自立心の向上に役立てる。
- エ. 企業・外部機関との関係強化および新学部・新学科の出口支援のための情報収集を行う。

## 5. 保護者・地域社会等との連携

### (1) 保護者・卒業生

学内の情報発信等を通して連携を維持強化する。

- ア. 保護者会（泉会）総会、進路相談会を開催する。
- イ. 学内報「カレッジ通信」（年2回）を発行する。
- ウ. キャリア支援センター主催の卒業生同期会を開催する。
- エ. 卒業生（卒業後3年経過）にアンケート調査（就業状況、学生生活の感想等）を実施する。

### (2) 地域社会との連携

建学の精神を具現化する地域連携を展開する。

- ア. 「地域発 元気づくり支援金」への申請・採択・実施に向けて取組み
  - 既存の連携先との関係強化を含め、地域連携事業推進体制の整備を引き続き進める。
- イ. 地域連携センターの機能強化
  - 地域課題と学部・学科の教育活動を繋げ、それぞれの学科の特徴を生かしたサービスラーニング型教育、PBL型教育による授業で学んだ知識・技能を社会的活動の中で活かせる場所を学生に提供する。
- ウ. 生涯学習講座や開放講座
  - シニア層や女性の活躍、インバウンド、などの地域課題解決の下支えとなるテーマの講座を増やすほか、子育て中の女性が安心して学べる環境を整えるなど、地方創生や子育て支援に貢献できるよう見直す。

### (3) ボランティア

- ・子育て支援に関するボランティア（こども食堂他）
- ・学習支援に関するボランティア（学習チューター他）
- ・地域活性化に関するボランティア（長野マラソン他）
- ・復興支援に関するボランティア（東北震災ボランティア他）

## 6. 学生生徒の募集・受け入れ

### (1) 入学者数・学生生徒数の目標

- ア. 幼児教育科 100名
- イ. 国際コミュニケーション科 100名

### (2) オープンキャンパス・学校説明会

オープンキャンパスは上野キャンパスで実施する。受験生の個別の対応は個別入試相談会として土曜日、日曜日を中心に開催し、平日は夜間に開催する。

- ア. オープンキャンパス 5回開催
- イ. 個別入試相談会 6回開催
- ウ. オープンキャンパス参加への誘導

- ・オープンキャンパスの運営を見直すほか学生スタッフの充実等を図る。
- ・都度、SNS、学生へのDM案内、高校訪問による告知等を充実する。

### (3) 志願者増への取組

- ア. データ収集・分析に基づいた戦略の立案
  - ・情報の蓄積、分析の実施により効果的なアプローチを実施する。
- イ. 資料請求者の増加策
  - 本学のセールスポイントと魅力を再確認し発信
  - ・セールスポイント（学び、キャンパスライフ、支援制度、就職等）を広報的に再構築し、各ツール（大学案内、就職・進学ツール、就職速報、保護者向け案内等）で発信する。
  - ・セールス話法の統一
  - ・ホームページへの誘導及びホームページの発信を推進する。
- ウ. アプローチ高校及び方法の見直し
  - ・高校別セールス方法を策定する。
  - ・入学者が減少した高校の状況を確認し対策を実施する。
  - ・出張講座の増加により大学の学びと教員の魅力を直に伝える。
  - ・高校ガイダンスへの参加を強化する。
- エ. 保護者対策
  - オープンキャンパス開催時に保護者説明会を開催し、本学の取り組み、学生支援体制、キャリア支援体制、学納金、奨学金の説明を通じ本学で学ぶことのメリットをPRする。
- オ. 高等学校教諭へのアプローチ
  - 姉妹校連絡協議会、高校連絡会を開催し、入試についての説明、個別相談及び情報交換を行い学生募集につなげている。
- カ. 出願への誘導
  - コンビニ振込、クレジット決済及びWeb出願をAO入試まで拡大し受験生の利便性の向上を図る。
- キ. 合格者の歩留まりをアップ
  - ・奨学金制度を見直し、有効に活用する。
  - ・本学の魅力を合格者へきめ細かく発信する。

### (4) 編入・帰国子女

特になし。

### (5) 広報活動

- ア. 高校生・保護者・高校教諭・地域に対し清泉女学院のケアの文化を支える教育を伝え、定員確保を目指す。
- イ. 清泉百年プロジェクトを継続し、清泉女学院のブランドイメージの定着を目指す。
- ウ. 専門性特化のPRをする。

### (6) 入試制度

- ア. 年内応募者の増強を狙いとした入試の実施
  - ・特別推薦入試、姉妹校推薦入試、指定校推薦入試、公募推薦入試、AO入試（国際コミュニケーション科のみ）で入学者を確保する。
- イ. 奨学金制度の見直しによる入試及び特典付与の在り方を検討
  - ・本学を志望する受験層に本学奨学金が効果的に活用できる入試に変更する。

### (7) 学納金

学納金の水準は現状のままとする。

入試特典制度（ラファエラ・マリアスカラシップ、社会人入学者の入学金半額免除、同窓生子女入学者の入学金半額免除、同窓生・在学生の姉妹入学者の入学金半額免除）による入学金、授業料の半額免除又は半額減免を周知させ募集活動につなげる。

## 7. 施設設備の維持・充実

### (1) 施設設備計画

上野キャンパス関係

看護学部設置に伴い、学生控室の充実のため、イグナチオ館を建設する。

アクティブ・ラーニング等に適した授業を展開するため、教室視聴覚機器等の充実を図る。

施設設備の更新的な投資を継続して行う。

### (2) 修繕計画

大規模修繕は計画していないが、維持的な修繕を行う。

## 8. 外部資金

### (1) 補助金

経常費補助

平成 29 年度並みの補助金獲得を目指す。

### (2) 寄付金

ア. 通常寄付

関係団体ほかからの寄付金を募集する。

イ. 清泉百年プロジェクト

清泉百年プロジェクト（文化学科設置、看護学部設置、施設の充実、定員の確保等）を目的に寄付金の募集活動を行う。

### (3) 研究費等

研究活動の充実のため、科研費への応募を一層促進する。

## 9. 管理運営、財政基盤の充実

### (1) 中期計画

ア. PDCA の実施状況

年度及び半期の実施状況の確認と未達成事項等を踏まえた計画の修正を実施している。内容の点検は、自己点検評価とも連動させ、計画達成のための実質的な PDCA を展開している。

イ. 中期計画の達成状況

中期計画（修正経営強化・改善計画）の平成 29 年度半期振り返りでは、経営面、各部署計画は、ほぼ計画通り遂行されており、結果も出てきている状況にある。

### (2) 経費方針

ア. 予算編成

平成28年度予算からは、事業活動収支計算書の全体見込額を予算として、その枠内で部署の予算を割り当てる方式に変更した。予算割り当てにおいては、各部署の過去の実績

と年度における事業の必要性等を考慮のうえ決定し、その予算枠の中で業務を実施する。予算枠の決定は、学長を初めとする予算査定会議で行い、各部署に通知して各部署予算を決定する。

イ. 経費計画

教育研究水準の低下を招かないことを前提に、過去の実績を考慮のうえ総枠としての経費見込額を設定した。この総枠から各部署予算枠を設定するが、各部署の削減努力により達成する。

(3) 第2号基本金計画

計画しない

(4) 債券運用計画

計画しない

(5) 情報・システム関連

Windows7のサポート期限切れに対応して、PCの入れ替えを順次行う。

東口キャンパスのICT基盤の整備を行う。

(6) 自己点検・評価

毎年の点検評価を実施し、点検結果については、翌年度事業計画に反映をすることで事業計画のPDCAとリンクさせる。

10. その他

(1) 周年活動

計画なし

(2) その他記念行事

東口キャンパス建設工事 着工、竣工時に記念事業、式典等を予定する。

## 1. 教育研究組織の改編、新增設

- ・新入試制度そしてその先の新学習指導要領の改訂時期を見据えて新たなカリキュラムを完成させる。
- ・深い学びを具体化すべく授業研究、ICT導入、ALの研修と実施に努める。

## 2. 教育活動

### (1) 建学の精神の実現

- ・月曜日は校長による主の祈り、水曜日は長野清泉の祈り、土曜日は宗教部教員による長野清泉の祈りを唱えた後にお話が続き、聖歌を歌って終わる放送朝礼によって一日が始まる。
- ・自分の一日を振り返る黙想をした後、清掃を行う。
- ・5月の聖母奉献式、11月の追悼ミサ、12月のクリスマスの集いを通して建学の精神に立ち返る。
- ・神父様をお招きして職員研修を継続する。

### (2) カリキュラム

2018年度から教育課程の改定を行った。中高一貫設置後の振り返りをもとに、膨張する一方だった授業時間数、選択科目数、コース・選択型について大きな見直しを行い新たな年度に向かう。

改定の際に留意した点は、多様な進路を想定するあまり、必ずしも必要のない教科の履修を義務づけていた状況を解消したことである。同時に、高校卒業認定に必要な教科については例外なく標準単位を確保して、確実に必要な学力を身につける体制を整えた。これらの変更にともない、従来多めに時間を確保していた英・数・国の時間が削減された面もある。これらについては、新入試制度への対応も含めて、効率的かつ効果的な学習指導の体制を構築することが今年度の課題の一つでもある。ICTの活用なども今後さらに検討を進める。

また、従来、時間割内におけなくなっていた総合学習を時間割内に確保した。体験活動や探求学習などを含む学習内容を充実させることにより、新入試で求められる学力三要素をバランスよく高める機会とする。そのほか、地域、社会に開かれた学びとして、ワークショップを開催する。長野市や実績ある設計事務所との協力のもと、近隣にある城山整備計画や、学校中庭を題材とした公共空間デザイン実習などを計画している。これらを通じて、学校内での学びはもちろん、地域、社会、世界への視野を広げる学びを提供したい。

### (3) 英語教育・国際交流・留学

「英語教育の充実」

- ・教師の指導力向上：英語科研修会の実施（情報交換・指導法／教材研究など）
- ・授業改善：授業のICT化・アクティブラーニング研究と導入に努める。

- ・新大学入試対応：「英語4技能」向上のために民間の検定試験への対応、英検を中心に指導（GTEC/TOEEC/TOEFLも）
- ・生徒の「生の英語」にふれる時間を増やす。  
エンパワーメントプログラムの導入（夏期休業中）：英語を通して生徒の主体性を養う。
- ・AETの常勤化
- ・英語力のある天主教（カトリック）台湾高級中学の生徒を迎え授業、クラブ活動（茶道、華道、書道）の交流。
- ・1学年3月のオーストラリア語学研修。
- ・アイルランド1年留学。

#### （4）ICT教育

- ・ICT教育の充実を図るべく、夏休み中に各教室のプロジェクター設置及び無線LAN化工事を行う。全教員にタブレットを配付することによってより効率的な学習をすべて授業でできる環境を整える。
- ・ICTを使用しながらALの実施、さらなる充実に向けて研究・研修を進める。

#### （5）図書館

- ・進路関係の資料の充実、入試関連の情報や問題集の充実を図る。
- ・古い書籍も大切にしつつ、調べ学習や読書で、中学生用・高校生用の充実した各資料を揃える。
- ・朝読書の時間のサポート（書籍準備・紹介）を引き続き行う。
- ・姉妹校の図書館間の協力体制や、情報交換、資質向上、レファレンスの向上を図る。
- ・バーコードでの貸し出し返却手続きができるように整備を進める。
- ・「調べ学習」に必要と思われるテーマをあらかじめ想定し、当該記事を新聞から切抜きで収集する。
- ・教科進路部作成の「学習のてびき」に掲載された関連図書の展示を行う。
- ・修学旅行、語学研修での長期調べ学習及び授業の資料収集、提供、レファレンス、ツールの準備を行い授業がやりやすい環境づくりを進める。
- ・生徒の居場所としての図書館の雰囲気作りを進める。
- ・蔵書の充実と検索機能の充実を進める。
- ・国際子ども図書館、豪日交流基金、全国SLA、公共図書館、他機関との連携を図る。
- ・図書館が関わるボランティア活動を充実させる。（読み聞かせ・日雇い労働者文庫への本の寄付・東ティモール図書館活動基金への協力）
- ・読書月間を始めとして、古本市、POPコンクール（内・外）、読書感想文コンクール（内・外）、読書感想画コンクール（内・外）、オーサービジット、ビブリオバトル、調べる学習コンクールなど内外のコンクール、清泉100冊の選定と冊子作り・読書の木（掲示）を通して、生徒に図書館利用を促す。
- ・長期休暇中も開館する。

- ・卒業生の蔵書や本校と姉妹校の資料の収集を進める。

### 3. 研究活動 [中学・高校]

#### (1) 学校全体に関わること

- ・中高一貫の成果を継承しながら、さらにこれまでに見えた課題を認識し中高一貫のカリキュラムの見直しを進める。一貫校としてのビジョンの実現を図っていく。
- ・ICT導入、AIの実施に向けて研究・研修を進める。
- ・個人情報保護委員会を中心にした情報管理の研究を進める。
- ・2020年の入試改革を念頭に、生徒情報の一括管理を進めるために教務システムの刷新を図る。
- ・危機管理体制を見直し生徒・職員の安全を確保する。

#### (2) 生徒に関わること

- ・総合的な学習として清泉独自の教育プログラムを作成し併せて進路指導の充実を図る。
- ・自学自習の力の養成と家庭学習習慣の確立を目指す。
- ・適正な情報管理システムと生徒データベースを構築する。
- ・特進コース及び進学コースのいずれにおいても学習指導の充実を図り、進路実現のサポートを行う。
- ・生徒会活動について生徒の自主性を育てる。最近、校友会の役員は自主的に文化祭スローガンを創造し年間を通じて運営ができるようになってきた。毎週の校友会放送も充実している。

#### (3) 教職員に関わること

- ・生徒並びに保護者から信頼される学校づくりのため教育活動、教員個人のあり方を各自の学校自己評価を通して見直す。
- ・教員の指導力向上を目指し、教員間の授業参観や研究授業を実施する。教科では、科内授業研究を行う。

### 4. 生徒への支援活動 [中学・高校]

#### (1) 奨学金

奨学生：前期後期の半期ごとの人物及び学業成績優秀者、各学年1名に、60,000円を支給する。

#### (2) 通学支援

特になし。

#### (3) ケア体制

心理的な課題をもつ生徒及び、その生徒が属するクラス担任への支援を強化する。  
年間計画の月1回を基本に、担任からの要請に応じて臨床心理士による教職員相談日の設置。  
必要に応じて生徒の面談も積極的に勧める。

## 5. 保護者・地域社会等との連携 [中学・高校]

### (1) 保護者・卒業生

保護者へ、下記の会を通じて生徒の指導・学校運営への理解を図っている。

- ・ 地区別保護者会による保護者相互の連携の強化を図る。
- ・ 地区別保護者会へ各学年より担任副担任が出席し要望、質問に答えるなど内容を充実させる。
- ・ 保護者会開催日に授業参観を設け、教育活動を見ていただきアンケートにより改善を図る。

卒業生

同窓会（さゆり会）より年一回の会誌『清泉便り』を送付。事務局が、会員との情報交換を行っている。

### (2) 地域社会との連携

- ・ 学校近くの公園整備に伴い長野市役所の担当者と本校生のワークショップを行い、市の事業に生徒の意見を反映させている。
- ・ 敷地となりの長野気象台へ中学生の理科の授業で訪問し学習する。  
長野気象台主催の「お天気フェア」に本校理科室を提供し、参加者に本校の案内も併せて行う。

### (3) ボランティア

#### 【社会福祉部】

- ・ 老人保健施設「城山」へ折り紙3枚を組み合わせたコマ、カード、ピョンピョンガエルを作成し、お届けする活動
- ・ 4月 あしなが学生募金 街頭募金への参加
- ・ 5月 感謝祭・聖母奉献式でマリア様にお捧げした花をブーケにして老人保健施設「城山」へお届け
- ・ 6月 文化祭で発表する福祉活動のとりまとめ
- ・ 10月 あしなが学生募金 街頭募金への参加
- ・ 11月 赤い羽根共同募金への参加
- ・ 12月 グループホームあさかわへのクリスマス訪問
- ・ 1月～2月 社会福祉部の活動記録のとりまとめ
- ・ 3月 活動記録の発行

#### 【社会福祉委員会】

- ・ 校外ボランティア（城山公園、ユーネットあさかわ、松寿荘）3か所×年5回（5,7,9,11,2月）ほど …清掃、団らん、折り紙、傾聴などのボランティア活動
- ・ お花のお届け（東長野病院、ユーネットあさかわ、松寿荘）5月…聖母奉献式で捧げられた花を贈り届ける。
- ・ チャリティーバザー（清泉祭）6月…収益はインドやフィリピンなどに送金

- ・越冬物資の収集（大阪釜ヶ崎へ寄付） 1 2 月
- ・クリスマス訪問（ユーマネットあさかわ、松寿荘） 1 2 月
- ・機関紙の発行 年 2 回（7 月、3 月）

#### 【大船渡ボランティア】

大船渡ボランティア 8 月 1 日～4 日 3 泊 4 日 現地のカリタスベースキャンプで清掃、傾聴などのボランティア、教諭 2 名の引率。

### 6. 生徒の募集・受入れ

#### (1) 入学者数・生徒数の目標

- ・今期の新しい受験体制での入学試験を経て、平成 3 0 年度の入学者数は、併設の中学校から生徒 3 5 名を含めて 1 4 0 名弱との予想である。
- 平成 3 1 年度は、中期計画で掲げている 1 8 0 名を目標として増加を図る。

#### (2) 学校説明会

- ・説明会の開催を早期から行う。回数の増加と参加中学生の要望を考慮し時期ごとの内容の工夫を行っている。

#### (3) 志願者増への取組

##### 志願者・保護者対策

- ・中学校へ送付した学校案内、学校説明会のリーフレットを通じて本校の教育の理解を図る。
- ・本校の魅力をより高めるため、授業内容、方法の改善を授業アンケート結果を基に進める。
- ・直に情報を伝える場として中学生・保護者に向けた学校説明会・体験入学の開催回数を多く設定した。中学生の来校増を実現するために、入試解説を織り込むなど内容の改善を図っている。
- ・10 月、11 月に開催される教育事務所主催の進路相談会で説明を行い、質問に答える。

##### 学校訪問

- ・在校生の出身中学校を中心に定例の 6 月訪問（約 6 0 校）を実施し、進路指導主事と面談し本校の魅力の理解を進める。
- ・11 月、長野市内の生徒増を見込む拠点校へ最新の学校説明会リーフレットを届ける。
- ・12 月の進路相談要請校の学年会に出席して疑問に答え、また要望に応える。
- ・中学より依頼された進路講演会を活用し、本校の魅力を伝える。

#### (4) 編入・帰国子女

- ・特になし。

#### (5) 広報活動

- ・生徒募集部内の意見交換を活発にし広報の改善を進める。毎年高校パンフレットを新しくする。
- また説明会に向けて作成したリーフレットと併せ使用し丁寧なわかりやすい情報発信を継続する。
- ・ホームページ内容を随時リニューアルに心がけ、情報提供の充実を図る。毎週更新してい

る「清泉日記」と「清泉めっせーじ」（教職員による講話中心）を今年度も引き続き作成していく。

- ・小学校、中学校との情報交換を密にして連携を強化する。
- ・昨年度末作成した『清泉ノート』を説明会などで、小学生、中学生へ配布し、本校をより身近に感じてもらう。
- ・HP・リーフレット・パンフレット等の広報活動を通じ教育活動を紹介する。
- ・小学生対象の体験授業等を実施する。

#### (6) 入試制度

- ・1月選抜では、これまで特進コースのみであった選抜に進学コースの受験機会を設けて、新たな志願者の開拓を図った。志願者数を見て改善を考える。
- ・合格者数を増加させるために、審査基準について検討を進める。

#### (7) 学納金

- ・2016年度入学生から維持費について1人あたり年額78,000円→84,000円への改定を行い、完成年度を迎える。

### 7. 施設設備の維持・充実

#### (1) 施設設備計画

- ・聖心館等大規模改修工事（内外装、照明LED化等）
- ・IT教育設備補助金利用によるICT教育設備の整備（詳細は2(4)）
- ・大体育館改修第2期工事（屋根補修・塗装、サッシ全面入替、床全面研磨、更衣室・シャワーブース・トイレの改修、暗幕更新等）

#### (2) 修繕計画

既存施設設備の維持・安全管理

- ・消防法に基づく消火器（製造後10年経過）の入替え
- ・防火シャッター法定点検
- ・フロン排出抑制法に基づくエアコンの定期点検
- ・体育設備の更新
- ・理科室廃薬品類処分

### 8. 外部資金

#### (1) 補助金

- ・学校法人補助金の更なる増額確保を目指し、教職員一丸となった取組み・一体感を図れるよう、特色教育の項目については担当教員にも協力を仰ぐ。
- ・ICT教育設備の整備にあたっては当該補助金を最大限活用できるよう2ヶ年計画により整備を進める。

#### (2) 寄付金

- ・大学・短大との清泉百年プロジェクトによる寄付金募集（目標額60百万円）
- ・大規模改修工事に合わせ泉会からの寄付を要請
- ・信託銀行との遺贈協定締結や寄付金募集サイトの周知（ホームページや学校新聞、同窓会

報等に掲載)

- ・返還学校債からの寄付受納及び勧誘

(3) 遊休資産の活用ほか収入確保策

- ・手つかずの状態となっている中庭について、高校 1 学年の総合学習の現場として活用する(詳細 2 (2))。
- ・法人向けネット銀行の活用により資金運用の活発化と効率化を図る。
- ・自動販売機設置場所の賃貸借化による収益確保

9. 管理運営、財務基盤の充実

(1) 中期計画

- ・職員会において決算状況や中期計画の遂行状況を定期的に報告する機会を設け全教職員に対する経営意識や計数感覚の醸成及び周知徹底を図る場とする。

(2) 経費方針

- ・下見積による価格調査並びに見積合わせの徹底と強化
- ・新電力やLEDへの切り替え、デマンド制御装置の適切な運用、太陽光発電システムの効率運用により電気料金の徹底した削減を図る
- ・教職員、生徒に対する節電節水意識の啓発
- ・授業料等滞納者や家計急変者への迅速な対応による滞納未然防止及び早期解消

(3) 第 2 号基本金計画

- ・H29 年度末で 2 号組入計画が完了となる。当初計画は大体育館改築計画であったが耐震工事や余寿命診断、全体の整備構想等から総合的に検討を重ねた結果、当初計画は中止とし、聖心館・大体育館を含めた大規模改修工事に充てるための取崩しとする。
- ・取崩し後、当面の新規組入計画はなし。

(4) 債券運用計画

- ・減価償却引当特定資産のうち 2 億円を債券運用に充て効率的な資金運用を図る。

(5) 情報・システム関連

- ・ICT 教育環境整備については 2 (4)
- ・H31 年度からの教務・校務システム導入に向けた研究の継続

(6) 自己点検・評価

- ・学校自己評価を継続して行い、魅力ある学校づくりのための教育活動、教員個人のあり方の見直しを進める(3 (3))。

10. その他

(1) 周年活動

- ・中学 10 周年・高校 70 周年記念として大規模改修工事及び寄付金募集事業(詳細 7 (1)及び 8 (2))

## 清泉女学院中学高等学校

### 1. 教育研究組織の改編、新增設

3 部体制(教務部 進路進学・研究部 生徒指導部)から、中学入試・広報部の新設に伴う 4 部体制確立

### 2. 教育活動

- (1) 建学の精神の実現 キリスト教観に基づいたライフオリエンテーションプログラムの充実
- ・ 宗教行事・活動の充実。共感、共生感を育てるライフオリエンテーションプログラムの実行
  - ・ 高1 高2 対象のベトナムスタディツアーの実行(ボランティア活動を通じての世界への共感)

(2) カリキュラム

- ・ 21 世紀型教育、新学習指導要領、高大接続・大学入試制度変更に対応する新カリキュラムの研究

(3) コミュニケーション能力の育成、異文化理解

- ・ 英語教育の特化

帰国生特別取り出し授業 ARE と、グローバル入試選抜方法の研究

英語検定 3 級程度クラス AE 開講 SE(スタンダードクラス)と 3 段階の授業内容の検討

- ・ インターナショナル国内留学(1 週間/中 3 希望者対象)の充実

- ・ 国際理解プログラムの充実

ニュージーランド海外語学研修プログラム(1 2 日間/中 3 ・高 1 希望者対象)

ニュージーランド短期留学制度(約 3 ヶ月/中 3 ・高 1 希望者対象)の実施

ボストンカレッジ夏季研修(高校生希望者対象)の新規導入

米国からのインターン、比からの留学生、ホームステイおよび授業への受入体制の充実

- ・ 春期休業期間における「English Camp」(中 1 ・中 2 希望者対象)の実施

- ・ オンライン英会話、e-learning 中国語、スペイン語が選択可能な、FLIP(Foreign Language Interactive Program)の確実な継続。中学 2 年生から高校 2 年生で実施

- ・ 模擬国連の推進

(4) ICT 教育

- ・ タブレット、電子黒板を利用した全生徒参加型授業、意見集約型授業の開発、促進

- ・ 生徒を取り巻く ICT 環境(インターネット・携帯電話・タブレットなど)の変化に合致した生徒指導の研究と実践

- ・ ICT リテラシーに基づいた ICT 活用のための中学 1、2 年生対象パソコン講座の開催

- ・ 全職員タブレットの貸与、タブレット使用の研究

(5) 図書館

- ・ 電算化のための継続作業実施

### 3. 研究活動

- ・ 清泉姉妹校とのさらなる協力・連携体制の研究。①清泉小学校へ出張授業 ②清泉小学校向けオープンスクールの開催 ③清泉女子大学からの出張授業(修学旅行講座 英語で学ぶ国際平和) ④清泉女子大学オープンスクール参加 ⑤海外姉妹校との連携構築

- ・教科横断型のリベラルアーツの研究
- ・生徒の自主的活動の支援(模擬裁判 AI 倫理会議)

#### 4. 学生生徒支援

##### (1) 奨学金

- ・白水会 泉会より 学費支援のための奨学金
- ・泉会より、中学3年生成績優秀者に入学金免除の特典

#### 5. 保護者・地域社会等との連携

##### (1) 保護者・卒業生

- ・計画的な保護者授業参観・懇談会・講演会・面談等の実施とその内容の充実
- ・学校情報の共有を目的としたHPのさらなる活用
- ・バザー(7月14日(土)開催予定)を通じた、保護者相互の親睦と地域社会との交流
- ・「東ティモールからの留学生支援の会」への協力(12月 -La Pura Fuente を迎えて- チャリティーコンサート開催予定)

##### (2) 地域社会との連携

- ・神奈川県私学連盟70周年記念行事への参加
- ・ハンガリー プロムジカ合唱団との交流と演奏の公開
- ・玉縄城跡見学者への対応
- ・東日本大震災被災地支援活動

##### (3) ボランティア

- ・生徒会を中心とした大船駅近辺、鎌倉海岸の清掃活動
- ・老人福祉施設(共楽荘・七里ヶ浜ホーム・ささりんどう等)の訪問・身体障害者地域作業所との交流等のボランティア活動の継続と推進

#### 6. 学生生徒の募集・受け入れ

##### (1) 入学者数・学生生徒数の目標

- ・清泉小学校より90名、受験による入学希望者90名 計180名

##### (2) オープンキャンパス・学校説明会

- ・学校説明会(年3回、内1回はオープンスクール同時開催)・親子見学会(年10回程度)・少人数学校見学会(年5回程度)・クラブ見学会(年1回)の実施とその内容の工夫による受験生及び保護者への効果的な情報発信
- ・清泉小学校対象説明会の工夫(4年生に授業見学、6年生にオープンスクール)

##### (3) 志願者増への取組

- ・塾・予備校に依頼された学校説明会の積極的実施と塾・予備校で行われている学校説明会への参加
- ・各塾(教室)への個別訪問(年2回)を通しての情報発信と受験生の掘り起こし

##### (4) 編入・帰国子女

- ・中学入学試験、および転編入試験における海外帰国子女の積極的受け入れの促進と広報活動  
ニューヨーク、香港、台北、シンガポールでの説明会に参加。日本人学校、インターナシヨ

ナルスクールへの学校パンフレット送付

(5) 広報活動

- ・神奈川県私立中学校相談会、神奈川県[中・高]全私学展、私学フェア、ミッション女子校、湘南ガールズリーグ、私触会、オンライン説明会、教会での説明会等、学外での情報発信の機会への積極的参加 校長、教頭による塾訪問など広報活動の強化
- ・HP 全面改訂 本校の特色を際立たせるイメージページと見出しの工夫
- ・入学試験、説明会のための WEB 出願の実施

(6) 入試制度

- ・中学入学試験 英語入試導入の研究

(7) 学納金

- ・入学検定料は WEB 出願によりオンライン（クレジットカード）による収納、入学金・施設設備費は従来通り振込による収納を実施
- ・授業料等はファクター会社経由各金融機関より口座振替にて収納

7. 施設設備の維持・充実

(1) 施設設備計画

- ・各教室の照明を LED 照明へ更新
- ・校内各所に案内板の設置
- ・教科研修室、ラマリョ館の老朽化による空調機交換
- ・インターネット用サーバーの更新
- ・理科教室用にホワイトボード一体型プロジェクターの購入
- ・専任教員へのタブレットの貸与(3年計画の2年目)

(2) 修繕計画

- ・校舎内外の環境美化の維持及び老朽箇所の改修・改善の実施
- ・南棟・図書館棟・体育館の屋上防水・外壁補修工事
- ・ラフェンテ(カフェテリア)改修工事
- ・教室床面リノベーション及びリフレッシュ工事
- ・通学路のアスファルト及び歩道平板の補修工事

8. 外部資金

(1) 補助金

- ・対象事業に対する補助金通知を受けた場合は、補助内容検討・精査後速やかに申請を実施

(2) 寄付金

- ・教育研究充実・奨学基金充実・施設設備拡充の寄付金を卒業生中心に募る

(3) (研究資金、遊休資産売却等、適宜のタイトル)

- ・遊休資産の活用・売却について検討

9. 管理運営、財務基盤の充実

(1) 中期計画

- ・中期計画に基づく適切な予算執行・管理を行うことで、健全な学校運営に努める

(2) 経費方針

- ・適切な予算執行の上、恒常的経費の見直し・検討を実施することで経費削減を図る

(3) 第2号基本金計画

- ・ラファエラ館建替え資金として、2018年度から2024年度の7年間（毎年5千万円）で組入総額3億5千万円の第2号基本金組入計画を実施  
（ラファエラ館は、1963年城廻修道院として建築、2002年より音楽・美術教室を含む教室、外郭団体の活動場所として使用しているが、設計が居住用であり中規模教室設置が困難なため建替えを検討している。）

(4) 債券運用計画

- ・減価償却引当金累計額の50%を上限とし、国債・地方債・政保債のいずれかから選択し、期間・利率を考慮し運用計画に従い債券運用を実施

(5) 情報・システム関連

- ・生徒管理(生徒情報・学納金・積立金)システム・給与システムを更新し、既に導入済みの学校会計システムと統合・共通化することで業務の効率化を図る

(6) 自己点検・評価

「保護者 在校生満足度調査」の実施報告と研究

10. その他

(1) 周年行事

特になし

## 清泉小学校

### 1. 教育研究組織の改編、新增設

- 特になし

### 2. 教育活動

#### (1) 建学の精神の実現

- 建学の精神を様々な学校生活を通して、子ども達に伝え、感じ取らせる働きをする。具体的には「学校の日」「マリア様の集い」「聖心のミサ」「クリスマスの集い」「感謝ミサ」等の学校行事、宗教行事、講堂朝礼の校長の話、宗教科教師による朝の話を通して、子ども達に神の愛を伝える。

#### (2) カリキュラム

- 夏休み前の補習（全学年）、放課後補習（高学年）を行う。
- 3～6年生希望者を対象に放課後学習プロジェクト（算数・国語）を実施する。
- 1～6年生希望者を対象に放課後課外クラブ（陸上）を実施する。
- 1～3年生で実施した様々な学習の成果を発表する。4～6年生は学校行事を企画・実行する。
- 中期計画に基づいて、3つの柱（英語・ICT・アクティブラーニング）を重点的に行う。

#### (3) 英語教育・国際交流・留学

- 英語科の専任教員を2名増員し、全学年毎日英語を実現する。
- 5・6年生希望者を対象に海外語学研修（オーストラリア）を行う。

#### (4) 図書館

- 図書管理システムを導入、管理の高度化、省力化を図る。

### 3. 研究活動

- 大学教授指導による「授業研究会」を年6～7回実施する。
- 各教師が自主的に授業を公開し、互いに研鑽を深める。
- 私立小学校関係の研修会、および全国の教育推進校の研修会に積極的に参加する。

### 4. 学生生徒支援

#### (1) 奨学金

- 奨学金制度（給付型）を維持する。

#### (2) 通学支援

- 児童のために常時警備員を置くほか、安全情報確保のため登下校管理システム、災害時被災報告システム、県内私立小避難校ネットを導入、運営する。
- 多くの児童が登下校時利用する鎌倉駅構内の指導、安全確保を図る。

#### (3) ケア体制

- スクールカウンセラーによる間接支援。

## 5. 保護者・地域社会等との連携

### (1) 保護者・卒業生

- 「通信表」を年3回（教科別観点方式）、「学校生活のようす」を年2回（1学期、3学期）、「総合活動のようす」を年1回家庭に知らせる。
- 1年に2回（1学期、2学期）「オープンスクール」を開く。（在校生保護者のみ参加）
- 「父の会」「母の会」「保護者会」「のぞみ会」「父親の集い」等で、保護者に学校の目指すものを伝える。
- 「学校だより」「学年通信」「学級通信」「保健だより」「算数だより」「図書だより」「体育だより」を発行する。
- 「いずみ新聞」を年4回発行する。

## 6. 学生生徒の募集・受け入れ

### (1) 入学者数・学生生徒数の目標

- 新1年生の募集：114名 編入生（1～5年）若干名。

### (2) オープンキャンパス・学校説明会

- 公開行事、公開授業、学校体験を含めた学校説明会、幼児教室向けの説明会、自然教室公開を積極的に行う。

### (3) 志願者増への取組

- 幼稚園保育園招待の行事参加、幼児教室主催の説明会参加を積極的に行う。

### (4) 編入・帰国子女

- 帰国子女受け入れは随時行う。

### (5) 広報活動

- 安定した定員確保のための積極的な広報活動を実施する。
- ホームページをリニューアルし、内容を充実させる。

### (6) 入試制度

- 編入募集は随時行う。

### (7) 学納金

- 変更なし

## 7. 施設設備の維持・充実

### (1) 施設設備計画

- 全教室で iPad を使用した授業が可能となるよう Wi-Fi 化工事を行う。
- セキュリティ強化のため Web フィルタリングサーバーを設置する。
- 老朽化したプレハブの建替えを行う。

### (2) 修繕計画

- 校舎、講堂の長寿化を図るべく計画的な修繕を行う。

## 8. 外部資金

### (1) 補助金

- 前年通りの金額を見込む

(2) 寄付金

- 卒業生、在校生及び入学手続終了者から募集する。

9. 管理運営、財務基盤の充実

(1) 中期計画

- 計画の実現にむけ、H29年度の決算を踏まえ、乖離した項目につき要因分析をしっかりと行っただうえ、H30年度中に追加対策を実施していく。

(2) 経費方針

- 広報費、修繕費については、必要な手当てをしていく。
- 全体として増加することのないよう、その他経費は抑制的に運用していく。

(3) 第2号基本金計画

- 三浦自然教室土地取得資金として、平成32年度まで毎年2百万円組入れていく。

(4) 債券運用計画

- 運用計画なし

(5) 情報・システム関連

- Webフィルタリングサーバーの設置により、セキュリティを高めていく。

(6) 自己点検・評価

- カトリック連盟から示されたカトリックミッションに沿った宗教教育、行事が適切に行われているか、しっかりと自己点検していく。
- 教職員の自己点検、保護者からの評価を実施し、PDCAにつなげていく。

10. その他

(1) 周年活動

- 75周年行事に向けた準備を進めていく。

## 清泉インターナショナル学園

### 1. 教育研究組織の改編、新增設

「国際バカロレア (IB)」が提供する Middle Years Programme (MYP)を SY2018-19 学校年度から新規導入するのに伴い、責任者ポストを新設。

### 2. 教育活動

- (1) 「モンテッソーリ教育 (幼稚部)」と「国際バカロレア」が提供する3つのプログラム (①小学部：PYP、②中等部：MYP、③高等部：DP) を柱に、特色ある教育を実践し、「国籍を超えて平和な世界を築く為の人材育成」を目指していく。
- (2) SY2018-2019 学校年度から MYP を導入することに伴い、新規カリキュラムを設定。

### 3. 研究活動

教育カリキュラムにおける生徒成績評価と共に、学習態度等も含めた多面的評価につき引続き研究を行なう。

### 4. 学生生徒支援

クラブ活動、各種スポーツ競技活動、音楽活動等への支援継続

### 5. 保護者・地域社会等との連携

- (1) 姉妹校及び近隣日本校との交流活動継続
- (2) 東ティモール、ベトナム並びにフィリピンのシスタースクールとの交流継続
- (3) 各種ボランティア活動等への積極的参加
  - ① 老人ホーム・デーホームでの奉仕活動
  - ② 恵まれない人々への食事提供活動
  - ③ 学校近隣の清掃奉仕活動
  - ④ ドッグシェルターでの清掃奉仕・募金活動等
- (4) 毎秋実施される保護者主催によるバザーを支援すると共に、地域社会との交流を深める。

### 6. 学生生徒の募集・受け入れ

- (1) スクールウェブサイトを利用した積極的な情報発信に加え、オープンハウス開催、外部学校説明会への参加等、双方向の交流機会を通じて魅力的な学園紹介に努める。
- (2) マーケティング、広報活動強化に向けた体制整備を継続する。
- (3) 生徒管理システムの正確かつ効率的な運用に努める。

### 7. 施設設備の維持・充実

- (1) 幼稚部棟の改修工事を中心として、計画的に施設整備を進めていく。
- (2) 校舎建物の将来的な“あるべき姿”の検討 (建築プログラミング) を継続する。

## 8. 外部資金

- (1) 例年通り東京都に対し「外国人学校教育運営費補助金」を申請予定
- (2) 寄付金については、様々な機会を通じて企業、保護者並びに卒業生に対し協力を要請していく。

## 9. 管理運営、財務基盤の充実

- (1) 安定的な財務基盤維持に向け、「収支バランス」に一層の注意を図っていく。
- (2) 第2号基本金計画  
平成37年度まで、每期30百万円繰入計画。
- (3) 情報・システム関連  
P2P対策システム対応予定。
- (4) 自己点検・評価  
ルールに準拠し対応予定。

## 10. その他

- (1) 周年活動  
なし